



教育を通じて難民の新しい道を拓く  
パスウェイズ・ジャパン  
PATHWAYS JAPAN



# 2025年度 年次報告書

2025.04-2026.03

誰もが自身の力で  
未来を切り拓ける世界

### 受け入れ

世界各地で難民の状況となった人々を受け入れ、主体的に  
日本社会の一員となることができるようサポートする

### 教育支援

市民社会の多様なパートナーとの協力により、  
難民の状況となった人々に、  
日本で高等・専門教育を受ける機会を作り、提供する

### 社会づくり

難民の経験を持つ人々を、広く社会へ受け入れる環境・仕組みを、  
日本やアジアで創りだしていく



パスウェイズ・ジャパン  
代表理事 折居 徳正

パスウェイズ・ジャパンは2026年、団体設立と渡邊利三国際奨学金開始5周年、そして教育パスウェイズ事業開始10周年という大きな節目を迎えました。ここまでの歩みを支えてくださった寄付者、助成団体、教育機関、企業、パートナー団体、個人ボランティアの皆様からのご支援・ご協力に心より御礼申し上げます。

この10年間で、232名の難民・避難民の若者を日本に迎え入れ、そのうち74名がすでに就職して、あるいはフリーランサーとして社会的な自立を達成しています。また、渡邊利三国際奨学金によりこれまでに72名の若者に高等教育の機会を提供することができ、さらに今年奨学金基金に700万米ドル（約11億円）の追加のご寄付を受領したことにより、今後より多くの若者に大学進学のための機会を提供するための基盤が整いました。

世界の各地に、そしてまたこの日本国内にも、紛争や迫害によって学びや将来への希望を奪われている若者が数多くいます。私たちはこれからも、一人でも多くの若者が日本で学び、キャリアを築き、自らの力で未来を切り拓いていけるよう、支援を充実させてまいります。今後とも皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## パスウェイズ・ジャパンの取り組む課題とアプローチ

### 世界の現状

世界では、紛争や人権侵害などにより故郷を追われた人々が増え続けています。国境を越えて難民となった人は4,160万人、国内避難民などを含めると、2025年末時点で避難を余儀なくされた人々は1億1,780万人に上ります（UNHCR「グローバル・トレンド・レポート2025」）。避難生活の長期化も深刻な課題です。また、アフガニスタンでは女性の教育や就労の禁止、前政権関係者や少数民族への迫害などにより、多くの人が国外避難を望みながらも、その機会を得られずにいます。一方、欧米諸国では難民受け入れ制度の見直しや縮小の動きも進んでいます。

### 解決策

こうした状況の中、教育や就労を通じて新たな受け入れの道筋をつくる「補完的パスウェイズ（Complementary Pathways）」が国際的に注目されています。各国政府による難民の第三国定住を補完する仕組みとして推進され、2023年のグローバル難民フォーラムでは、今後5年間で年間20万人を教育や就労を通じて各国に受け入れる目標が掲げられました。教育と就労を通じた受け入れは、難民・避難民に生活再建の機会を提供するだけでなく、受け入れ社会にとっても新たな人財との出会いにつながる取り組みです。

### 高等教育進学

一方で、難民の背景を持つ人々の高等教育進学率は世界全体で9%にとどまっています（UNHCR教育報告書2025）。国際社会では、2030年までにこれを15%へ引き上げる目標を掲げ、各国で教育機会の拡大に向けた取り組みが進められています。

### PJの活動の位置付け

#### 難民の祖国

迫害・紛争等により全世界で  
約4,160万人が  
難民として母国を逃れている



自力で渡航できるのはごくわずか  
35%

近隣諸国に避難  
65%

#### 庇護国（周辺国）

庇護国の大半は途上国。  
難民が教育や就労の機会を得ることは難しい



政府の第三国定住  
▶年間目標  
約10万人

#### 第三国への補完的な受け入れの道

人道ビザ／家族呼び寄せ／  
留学／就職 ほか  
▶年間目標約20万人

#### 庇護国（先進国など）

先進国へ庇護を求めて入国できる人は  
難民全体のごく一部に限られる



# 教育を通じた難民・避難民の受け入れ 10年の軌跡

この10年、パスウェイズ・ジャパンの活動を支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。私たちは、日本語学校や大学と連携し、教育を入り口に難民・避難民の若者を受け入れる「教育パスウェイズ」を進め、230名以上の若者の受け入れと70名以上の就職へとつなげてきました。

また、日本に暮らす難民・避難民の若者の高等教育進学を支援する「渡邊利三国際奨学金」も5周年を迎え、困難の中で教育に希望を見出し歩む道のりを支えています。これからも、難民・避難民の若者一人ひとりが学びを通じて自立し、未来を切り拓いていける社会を目指して歩みを続けていきます。

**2016 教育を通じた受け入れを目指す事業を開始**  
シリア危機を背景に、難民を「留学生」として受け入れる新たなモデルを（特活）難民支援協会が始動。

**2017 第1期生5名が来日**  
トルコでの現地選考を経て、シリア出身の若者5名が教育パスウェイズの第1期生として来日。

**2018 「難民に関するグローバル・コンパクト」採択**  
政府の第三国定住を補完する、民間主導の教育・就労による難民受け入れが国際的に推奨される。

**2019 第1陣が日本語学校を卒業**  
2年間の学びを経て大学進学を実現し、就職・大学院進学へと続く進路を切り拓く。

**2021 パスウェイズ・ジャパンを設立**  
5年間の事業を継承して、財団法人として新たに発足。

## アフガニスタンからの受け入れ開始

政変を受けて、翌2022年に第1陣が来日、あわせて退避者支援コンソーシアムの運営にも参画。

## 渡邊利三国際奨学金募集開始

（公財）パブリックリソース財団の奨学金として開始され、募集や選考に協力。初年度は5名採用。

**2022 ウクライナから100名超を受け入れ**  
ロシアによるウクライナ侵攻を受け、日本語学校・大学と連携し、1年間で100名以上の避難民を受け入れ。

## PJとして渡邊利三国際奨学金運用開始

10億円の寄付を基に奨学金基金を創設し、9名の奨学生を採用。その後の採用拡大に向けた資産運用が始動。

**2023 グローバル難民フォーラムでプレッジ発表**  
今後5年間で20万人を教育・就労を通じて受け入れるというプレッジを、タスクフォースを代表して発信。

**2024 渡邊利三国際奨学金、12名採用へ拡大**  
採用者を12名に増やし、トルコ（クルド）出身学生を含むなど、奨学生の背景も一層多様化。

## 公益財団法人に認定

**2025 国外からの受け入れ200名突破**  
シリア・アフガニスタン・ウクライナからの受け入れが増え、進学・就職の実績と卒業生コミュニティも拡大。

## 渡邊利三国際奨学金、21名採用へ拡大

採用者が21名に増加し、カメルーン・ウクライナ出身学生を迎え、過半数を女性が占める奨学金へと発展。

**2026 就職した卒業生70名以上に**  
IT・ヘルスケア・メディアなど多分野で就職し自立した卒業生が70名を超え社会を担う人材へと成長。

## 渡邊利三国際奨学金 応募者200名超へ拡大

応募者が226名に達し、採用者も過去最多の25名に。国内最大規模の難民・避難民向け奨学金プログラムに。

## 事業開始10周年 世界で人道危機が続く中、学び、働く希望の道を

中東・南アジア地域的情勢悪化の中、この春も26名の学生を日本に受け入れました。今後は、受け入れ国を拡大し、さらに多くの若者に、日本で学び未来へ歩む道筋を広げていきます。

また、高等教育進学を支援する「渡邊利三国際奨学金」事業では、過去最多の25名の高等教育進学の夢を支援し、次年度はさらなる拡大を予定しています。これからの10年も、難民・避難民の若者たちが安心して学び、社会とつながり、自らの力で未来を切り拓く道を日本で広げていきます。

## 10年で広がった 日本での 教育パスウェイズ



### 高等教育支援

奨学生の数：累計 **72名**

女性の割合： **約半数**

国籍： **6か国**

ミャンマー、アフガニスタン  
シリア、ウクライナ  
カメルーン、トルコ（クルド）



### 卒業生

受け入れ人数： **230名** 以上

就職・フリーランスで独立：  
**70名** 以上



### 受け入れ教育機関/ 支援企業

日本語学校数： **22校**

専門学校： **2校**

受け入れ大学数： **16大学**

就活支援への参加企業：  
**32社**

## 2025年度奨学生 **21** 名 2026年度奨学生 **25** 名

難民の背景を持つ人々の高等教育進学率は世界でわずか9%にとどまり、多くの若者が紛争等によって大学教育の機会を奪われています（世界の平均大学進学率は43%）。「渡邊利三国際奨学金」は、日本で暮らす難民・避難民の若者が高等教育を通じて自らの目標を達成し、日本が多様な人材が活躍する社会となつてほしいとの寄付者・渡邊利三氏の思いから設立されました。本奨学金は、これまで支援の対象となりにくかった留学等の期間限定の在留資格を持つ難民・避難民を主な対象としており、学費と生活費の両方を支援する返済不要の奨学金です。奨学生たちは、自ら志望する進学先や専攻分野を選び、短期大学から大学院まで、工学、経済、日本語教育、観光、医療・看護、農業など幅広い分野で学んでいます。

2025年度は21名の奨学生を支援し、大学院生4名、学部生・短大生4名が卒業しました。うち5名がフルタイムの就職を果たし、1名が大学院へ進学しています。また、2026年度は226名の応募の中から過去最多となる25名が採用されました。さらに2026年6月には、奨学金基金として、渡邊利三氏より700万米ドル（約11億円）の追加のご寄付をいただきました。これにより、今後「渡邊利三国際奨学金」は年間30-40名を支援する、日本最大の難民・避難民向け奨学金プログラムとなります。パスウェイ・ジャパンは、大学で学びたいという若者たちの思いに応え、一人ひとりが自ら描くキャリアを実現して、日本社会の一員として活躍できるよう支援を続けていきます。



奨学生の詳細は  
[こちら](#)

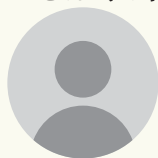


他の奨学生の  
スピーチは  
[こちら](#)



## 奨学生の声

### Pさん（ミャンマー出身、国際教養学部卒業）



今年の3月に大阪の大学を卒業しました。私は日本語教師になりたいという夢があったので、4年生の時は日本語教員養成講座にも通いました。大学との両立は簡単ではありませんでしたが、生活面でも支えていただいたおかげで勉強に専念できました。そして2024年10月に行われたパスウェイ・ジャパンの就職活動に関するセミナーに参加したことがきっかけで、3年生のうちに無事にいくつか内定をいただきました。その中で、事務局の皆さんと何度も相談にのっていただいて、自分に合った進路を選ぶことができました。そして、この4月から東海地方の日本語学校で日本語教師として働いています。まだ慣れないことも多いですが、日々学びながら努力しています。今後は、ミャンマーで自分の日本語学校を開きたいと思っています。ここまで来ることができたのは本当に、この渡邊利三国際奨学金をくださった皆様のおかげです。私にとって夢を叶える大きな支えになりました。最後に改めて本当にありがとうございました。

### ナジャさん（アフガニスタン出身、国際関係学）



アフガニスタンでは、2021年にアメリカ軍が撤退し、タリバンが権力を支配したことで、国の状況は大きく変わりました。父は仕事や教育を通じてアメリカや日本と関わりがあったため、家族の命が危険でした。また、タリバンが女性に対して教育、働くことを禁止し、約7ヶ月学校に行く事が出来ませんでした。アフガニスタンからイランを経て日本へ避難する中で、約1年間学校から離れていました。

日本では高校を卒業することができましたが、その後は経済的な理由からすぐに大学へ進学することができず、2年間、勉強とアルバイトを頑張りました。その期間は精神的にも難しい時期でしたが、一方でボランティア活動や講演を通じて、アフガニスタンの現状や女性の教育・権利について話すことで自分には頑張る責任を感じて、モチベーションと励ましになりました。

現在は大学で国際関係を学んでいます。アフガニスタンと日本という異なる環境で育った経験から、人権やジェンダー平等、女性のエンパワーメントについて深く関心を持つようになりました。将来は、女性の権利やジェンダー平等等の課題に取り組む分野で働き、日本社会の一員として国内外で積極的に活動していきたいと考えています。



# シリア、アフガニスタン、ウクライナから日本への道筋を作る

-受け入れ-

2025年受け入れ **23** 名 2026年度受け入れ **26** 名

## 国外からの受け入れ

パスウェイズ・ジャパンでは、紛争や人権侵害により学びや将来の選択肢を奪われた若者が、日本で未来への道を拓けるよう、「日本語学校パスウェイズ」プログラムを実施しています。2025年度は23名を受け入れ、学生たちは仙台から沖縄まで各地の日本語学校で学んでいます。

一方2026年度募集では、シリア、アフガニスタン、ウクライナから過去最多となる2,056名の応募があり、選考を経て32名を採用、最終的に26名が来日を果たしました。母国の厳しい状況に加え、2月下旬以降の中東・南アジア地域の情勢悪化の影響を受け、半数以上の学生が渡航延期を余儀なくされました。関係機関や教育機関、来日サポートボランティアなど、多くの関係者が連携し、一人ひとりの状況に応じた調整を重ね、学生たちは日本にたどり着き、新たな一歩を踏み出すことができました。世界的に各国政府による難民・避難民の受け入れが縮小する中でも、市民社会主導で受け入れの拡大に努め、教育を通じて未来を切り拓こうとする若者たちの強い思いに応えようとしています。

来日した若者たちは、日本で学び、進学し、就職して、それぞれの道を切り拓いています。難民・避難民の若者が学びを通じて成長し、その経験を次の世代へつないでいく循環が、日本社会で始まり、少しずつ広がっています。

## 自立・就労支援

日本語を学ぶ機会の少ないアフガニスタン出身の難民・避難民を対象に、「しごとのための日本語講座（初中級）」と「日本語能力試験N3対策講座」をオンラインで実施し、延べ21名が受講しました。受講生は、経験豊富な日本語教師による授業を通じて、日本での就労や進学に必要な日本語力の向上に取り組みました。また、就職活動中の難民・避難民14名を対象に「就活メンターシップ」を実施し、プロボノのビジネスパーソンによるキャリア相談や履歴書添削、面接練習などの支援を行いました。さらに、新卒採用を目指す難民・避難民向けに「就活日本語講座と就活セミナー」を開催し、30名が参加しました。参加者は敬語や自己ピーアールを学ぶとともに、企業9社との交流を通じて業界や企業への理解を深め、日本での就労に向けた準備を進めました。

## 普及・啓発

教育パスウェイズの普及と活動の進捗報告のため、卒業生が自身の経験を語るオンライン活動説明会を定期的に開催したほか、2025年11月には、寄付者・支援者向けの活動報告会を会場とオンラインのハイブリッド形式で開催し、学生、卒業生が来日後の学びや生活、進学・就職準備の状況について報告しました。さらに、UNHCRなどが主導する教育パスウェイズのグローバル・タスクフォースに運営メンバーとして参画し、タイで開催された教育パスウェイズに関する国際会議や、グローバル難民フォーラム（GRF）のレビュー会合において、日本の取り組みの進捗を報告しました。



2026年4月に来日した学生



新しく来日した学生向けの先輩オリエンテーション



企業と面会する「就活セミナー」

### 加盟ネットワーク

- ・ Global Task Force on Third Country Education Pathways
- ・ なんみんフォーラム（FRJ）
- ・ J-FUN（日本UNHCR-NGO評議会）
- ・ アフガニスタン退避者受け入れネットワーク（AFA）
- ・ 日本教育パスウェイズ・ネットワーク（JEPN）
- ・ 公益法人NGO連絡会



難民・避難民の若者と寄付者・支援者が集った「活動報告会」



チェンマイでの「実践者コミュニティの会合」：政府、国際機関、教育機関、市民社会組織等から70名が参加



ジュネーブ開催のグローバル難民フォーラム(GRF)に代表理事が参加

# 難民・避難民の学生の声

## ～2026 年に来日した学生～



### ハムドさん（シリア出身）

現在、私の母国では戦争は終結しましたが、生活費を賄うための十分な収入や経済的安定といった、生活において重要な要素が依然として欠けています。物価は上昇し続け、通貨は深刻なインフレに見舞われているからです。

さらに、キャリアの面でも、シリアでは私のキャリアへの志や目標を追求することは不可能です。私が日本を選んだのは、この国が安定しており、生活が非常に便利だからです。また、パスウェイズ・ジャパンの支援のおかげで、私たちは日本へ渡航し、新しい生活を始めることができました。学生生活は忙しいですが、日本語の習得に全力を尽くさなければなりません。私の将来の目標は、できるだけ早く日本語の学習を終え、データサイエンティストとしてIT業界でのキャリアをスタートさせることです。



### アティファさん（アフガニスタン出身）

パスウェイズ・ジャパンの奨学金を通じて日本に来ることができたおかげで、アフガニスタンで奪われてしまった教育を、ここで続ける機会を得ることができました。タリバン支配下では、女子は中等教育の学校や大学に通うことがもはや許されていません。私が日本を選んだのは、質の高い教育が受けられるだけでなく、安心して学び、成長し、自分の未来を築くことができる場所だからです。

日本に来てからは、日本語学校で毎日日本語を学びながら、アルバイトもしています。新しい言語や文化、ライフスタイルに適應するのは大変でしたが、こうした経験を通じて、私はより自立し、自信を持ち、困難に立ち向かう強さを身につけることができました。また、私を支え、前へ進むよう励ましてくれる優しい方々にも出会えました。

将来的には、日本の大学で学びを続け、そこで得た知識とスキルを活かして社会に貢献し、教育の機会を奪われてきた女子たちを支援していきたいと考えています。この機会を与えてくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。



### アローナさん（ウクライナ出身）

私はウクライナ出身のアローナです。高校生の頃から日本に惹かれ、2021年から大学で日本語を専攻しました。戦況の影響でウクライナでの学習は困難でしたが、今、日本で学びを継続でき大変嬉しく思います。

現在は日本語学校に通いながらスーパーでアルバイトしています。同僚は皆日本人で、未熟な私をいつも温かくサポートし、優しく言葉を教えてくれます。周囲の支えに感謝し、日々日本社会に馴染めるように頑張ります。

来日は長年の夢でした。将来は大学院に進学し、日本語の専門知識をさらに深めたいです。夢の場所に立てた今、目標に向かってこれまで以上に努力を重ねていきます。

## ～2026 年に進学・就職した卒業生～



### タラールさん（シリア出身）

私の母国では将来に不安があり、新しい環境で挑戦したいと思い日本にきました。日本語学校では、言葉だけでなく異文化の中で生活する大変さや楽しさも経験しました。勉強とアルバイトの両立は簡単ではありませんでしたが、自分なりに工夫しながら乗り越えてきました。現在はエンジニアとして働いており、まだ学ぶことは多いですが、自分の道を少しずつ築いています。これからも成長を続け、より大きな目標に挑戦していきたいです。



### ザハラさん（アフガニスタン出身）

女性であり、アフガニスタンのハザラという少数民族の一員として、私は幼い頃から、自国では多くの制約や障壁に直面することになるだろうと悟っていました。そのため、海外で学び、自分の真の可能性を見出したいと夢見るようになりました。しかし、その矢先にタリバンが国を支配し、女性たちは高等教育や就労など基本的な権利を奪われました。家族とともにイランへ移住し学業を続けることができたが、より多くの機会があり、女性にとってより支援環境が整った国で学びたいという思いは変わりませんでした。

ある日、パスウェイズ・ジャパンの奨学金プログラムを知り、応募することにしました。当初は沖縄での生活に不安もありましたが、温かさや文化、そして人々の優しさや寛大さに満ちた場所で、忘れられない2年間を過ごしました。現在は東京の大学で学び、留学生として新しい環境に適應しながら、自立し、困難に負けず、柔軟な考え方を身につけることができました。将来は、自身の経験と学びを活かし、教育の機会を奪われたアフガニスタンの若い女性たちに、機会と希望を届けたいと考えています。パスウェイズ・ジャパンの支援は私の人生の方向性を変え、夢に向かって歩み続ける力を与えてくれました。



### イリナさん（ウクライナ出身）

私はウクライナの大学で日本語学科を専攻していました。しかし、戦争の影響で、それまで普通だった生活や将来の計画が大きく変わり、大学を卒業できるか分からない状況になりました。そんな時、パスウェイズ・ジャパンのプログラムを通して、日本で学び続ける機会をいただきました。

来日前から日本語能力試験N3レベルくらいの日本語を勉強していたので、日本に来てすぐアルバイトを始め、今も続けています。日本語学校では2年間勉強し、2年目からは大学受験の準備も始めました。日本語だけではなく、いろいろな科目を日本語で勉強しなければならず、日本語学校、アルバイト、受験勉強を両立するのは本当に大変でした。でも、周りの方々の支えや、「もっと学びたい」という気持ちのおかげで、最後まで頑張ることができました。

現在は大学の国際学部で、文化や歴史、国際関係について学んでいます。自分の興味があることを学べる毎日はとても楽しく、日本で少しずつ新しい未来を作れていると感じています。これからもいろいろなことに挑戦しながら、自分らしく成長していきたいです。

10周年記念ウェブサイトの中でも、難民・避難民の若者の声を紹介しています。[こちら](#)からご覧ください。





## メディア掲載実績

- 2025
- 06-12 NHK 時論公論 『世界の難民と日本の支援』
  - 06-20 朝日新聞 『難民キャンプから特定技能で日本へ、NPO「双方にメリット」』
  - 06-20 毎日新聞 『逆風の難民支援 理解得るカギは？ アフガン女性「いつか恩返しを」』
  - 08-20 日テレニュース 『ウクライナ出身の私が聞いた 被爆80年の広島 未来に伝えたいヒバクシャの声』
  - 10-04 Withnews by 朝日新聞 『ウクライナから避難の学生、逆境に負けず日本の大学院で修士課程修了』
  - 11-04 東京都多文化共生ポータルサイトニュースレター  
『公益財団法人パスウェイズ・ジャパン～難民・避難民の若者たちの未来への道筋を市民の力で支える～』
- 2026
- 11-11 琉球新報 『他者に寄り添う社会に 平和フォーラム 排外主義に警鐘鳴らす』
  - 11-20 The Migration Opportunity 『Labor Mobility for Crisis-Affected People : A Critical Option in an Aid-Less World』
  - 02-13 朝日新聞デジタル版 『受け入れる大学にも恩恵 日本でも難民学生の受け入れ拡大を』
  - 02-24 TBSラジオ 荻上チキ・Session 『ロシアによるウクライナ侵襲から4年。公的支援終了後の避難民の現状と、多文化共生の課題』
  - 03-06 教育新聞 『日本で学び、就職へ 新たな難民支援、教育パスウェイズ』
  - 03-08 毎日新聞 『「いつか学校に」 教育制限のアフガン 闘う女性たちと日本の伴走者』
  - 03-17 毎日新聞出版 『タリバンの世界 秘密学校の少女たち』
  - 03-19 沖縄タイムス 『学ぶ幸せ胸に東京の大学へ ザラさん日本語学校卒業』

## 支援ネットワーク：大学・専門学校・日本語学校、支援企業・団体一覧

### 受け入れ大学及び日本語学校一覧（2026年4月時点）

#### JEPN加盟大学（22校）

合同募集実施大学  
 関西大学（大阪府）  
 関西外国語大学（大阪府）  
 慶應義塾大学（東京都）  
 国際基督教大学（東京都）  
 上智大学（東京都）  
 創価大学（東京都）  
 大東文化大学（埼玉県）  
 東京女子大学（東京都）  
 常磐大学（茨城県）  
 フェリス女学院大学（神奈川県）  
 文京学院大学（東京都）  
 武蔵野大学（東京都）  
 明治大学（東京都）  
 立教大学（東京都）  
 龍谷大学（京都府）  
 早稲田大学（東京都）

テンプル大学ジャパンキャンパス（東京都）  
 関西学院大学（兵庫県）  
 天理大学（奈良県）  
 東京大学（東京都）  
 東北大学（宮城県）  
 法政大学（東京都）

#### 専門学校（2校）

総合学院テクノスカレッジ（東京都）  
 日本写真芸術専門学校（東京都）

#### 日本語学校（22校）

仙台国際日本語学校（宮城県）  
 日本国際工科専門学校（千葉県）  
 船橋日本語学院（千葉県）  
 ABK学館日本語学校（東京都）  
 カイ日本語スクール（東京都）  
 新宿日本語学校（東京都）  
 東京工学院日本語学校（東京都）  
 東京国際外語学院（東京都）  
 東京明生日本語学院（東京都）  
 京都民際日本語学校（京都府）  
 神戸住吉国際日本語学校（兵庫県）  
 倉敷外語学院（岡山県）  
 国際言語文化センター附属日本語学校（ICLC）（沖縄県）

#### 「ウクライナ学生支援会」参加の

#### 以下の各日本語学校

メロス言語学院（東京都）  
 日本語センター（京都府）  
 清風情報工科学院（大阪府）  
 コミュニカ学院（兵庫県）  
 専門学校湖東カレッジ（熊本県）  
 国際ことば学院日本語学校（静岡県）  
 ルーピングインターナショナル日本語学校（大阪府）  
 AMA 日本語カレッジ（兵庫県）  
 創智国際学院（兵庫県）

#### 受け入れプログラムパートナー 団体

日本国際基督教大学財団  
 シリア OV 会  
 特定非営利活動法人日本ウクライナ友好協会  
 日本青年国際交流機構（IYEO）  
 KRAIANY 特定非営利活動法人 TELL  
 特定非営利活動法人 WELgee

### 支援団体・企業一覧

#### 助成金

公益財団法人 アジア福祉教育財団  
 真如苑  
 日本国際基督教大学財団  
 公益財団法人日本財団

#### 寄付金

一般社団法人志有会  
 ブルームバーグ エルピー  
 株式会社Commit work  
 SAPジャパン株式会社  
 株式会社フレックスインターナショナル  
 日本基督教団代々木上原教会  
 ヒューグルエレクトロニクス株式会社

#### 物品・サービス協力

SAPジャパン株式会社  
 かすみがせき婦人会  
 国際協力機構（JICA）ウクライナ支援室  
 国際基督教大学  
 特定非営利活動法人国際留学生協会（IFSA）  
 シャピーロ財団  
 多文化ネットワーク fu ふ！ 沖縄  
 公益財団法人東京YMCA  
 ブルームバーグ エルピー  
 武蔵野大学  
 ラッシュジャパン合同会社チャリティバンク  
 株式会社PR TIMES  
 一般社団法人留学生支援ネットワーク  
 龍谷大学  
 ICU Culture and Diversity in Japan (CDJ)  
 Sophia Refugee Support Group (SRSRG)

#### 約100名のボランティアの協力

日本での難民・避難民の若者の受け入れでは、様々な場面でボランティアの方にご協力いただいています。来日時には、空港へのお迎えや住居への移動、市役所での手続きなどに、学生・社会人約20名が同行支援に参加しました。また、進学支援では、EJU（日本留学試験）の受験対策を1対1で行う「チューター制度」に大学生・社会人約10名が登録。就職活動では、自己分析や履歴書作成、面接準備などを支援する「メンターシップ」に、毎年約10～15名の社会人が参加しています。

※五十音順・敬称略

#### 個人寄付

39名から 804,280円のご寄付をいただきました

## 決算報告 (2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで)

### 決算報告

(単位: 円)

| (1) 経常収益             | (2) 経常費用               |
|----------------------|------------------------|
| ① 特定資産運用益 28,099,954 | ① 事業費 58,520,185       |
| ② 受取補助金等 24,579,313  | ② 管理経費 3,460,066       |
| ③ 受取寄付金 7,875,418    | 経常費用計 61,980,251       |
| ④ 雑収入 170,480        |                        |
| 経常収益計 60,725,165     |                        |
|                      | 正味財産期末残高 1,187,022,986 |

## 団体概要

団体名 公益財団法人 パスウェイズ・ジャパン (Pathways Japan PJ)  
設立 2021年7月7日 一般財団法人設立 2024年10月1日 公益財団法人として認定  
所在地 〒112-0004 東京都文京区後楽2-16-5 福永ビル4階  
代表理事 折居 徳正  
TEL 03-6555-3193

### 役員一覧

評議員 藤田 直介 弁護士  
機能 聡子 ARUN 合同会社代表  
奥野 由紀子 東京都立大学教授  
名誉会長 渡邊 利三  
理事 折居 徳正 当財団代表理事  
井内 摂男 団体役員  
石井 宏明 特定非営利活動法人Mobility for Humanity共同代表  
鈴木 真代 SocialConnection for Human Rights共同創設者  
津田 和泉 公益社団法人難民起業サポートファンド理事  
長谷部 美佳 明治学院大学准教授  
監事 根本 剛史 弁護士  
藤澤 祐貴 公認会計士  
顧問 石川 えり 団体役員

 [www.pathways-j.org](http://www.pathways-j.org)

 @pathwaysjapanPJ

 @pathways\_japan

 @pathwaysjapan

 公益財団法人  
パスウェイズ・ジャパン  
PATHWAYS JAPAN

## 難民の学生の未来への歩みを支える 伴走サポーター募集中



紛争や人権抑圧などで母国を逃れる難民・避難民の若者が世界で増える中、日本で学び、働くことを希望する者は毎年約2,000名以上にのぼります。より多くの若者を受け入れ、日本で未来を切り拓く道筋を広げていくには、継続的なご支援が必要です。ぜひご寄付を通じて、一人ひとりの道のりに寄り添い、未来への歩みをともに進める「伴走サポーター」となってください。

✦ ご支援は [こちら](#) から

